

2022年7月25日

カトリック立川教会

主任司祭 荒川博行

運営委員会議長 小塚俊幸

新型コロナの危機管理について

早速ですが、新型コロナの感染状況は日々悪化しており、感染者数は毎日過去最高を更新しています。そのような中で立川教会では危機管理として、問題が発生した場合の対応策を準備しておく必要に迫られています。今回は想定するリスクを新型コロナに絞り、どのような問題が発生した時に「誰が、何をするのか」を整理しました。

信徒の皆さまには予め発生する可能性を認識して、ご理解とご協力をお願いします。

また引き続き、配信メールやホームページ等の情報に注意を払ってください。

【ミサ中止の判断基準】

- 1) 司祭がコロナ陽性になった場合（感染をして症状がある場合、PCR検査で陽性になった場合）
- 2) 司祭が濃厚接触者となって、陰性の確認が取れていない場合。
- 3) 行政から緊急事態宣言等の制限措置が出された場合。
- 4) 東京教区から公開ミサ中止の指示が出た場合。
- 5) ミサに参加した複数の信徒が感染した場合。（ミサの際に感染していた可能性）
- 6) ミサ奉仕者の複数の感染した場合。（ミサの際に感染していた可能性）

【ミサ中止の判断がされた場合の対応】

- ・配信メールとホームページで信徒にミサが中止になることを周知する。
- ・上記を見ていない信徒のために聖堂と信徒会館入口に張り紙をする。
- ・中止を知らずに来た人のため、ミサ開始時間に案内者が待機する。
- ・複数の信徒の感染が判明した時は、該当ミサ参加者に電話で状況確認を行う。
(立川教会連絡カードで該当ミサ参加者に連絡)
- ・中止の連絡が間に合わない場合は、当日に限り集会祭儀を行う可能性があります。

【ミサ再開の基準】

- 1) 司祭が陽性になった場合は、東京都の療養解除基準に準拠してミサ再開を判断する。
- 2) 司祭が濃厚接触者の場合、PCR検査の陰性確定か、東京都の待機期間に準拠してミサ再開を判断する。
- 3) 4) 行政や教区から制限が出た場合は、それが解除されるまでミサの再開を待つ。
- 5) 6) 信徒や奉仕者感染の場合は、クラスターではない事が確認できれば、翌週から解除する。

【ミサ再開の判断がされた場合の対応】

- ・配信メールとホームページで信徒にミサが再開される事を周知する。

【葬儀ミサ開祭の条件】

- ・司祭が陽性でない限り開祭する
- ・家族を含めた人数を制限する
- ・主聖堂を使用する(ご遺族の強い希望であっても小聖堂では行わない)
- ・司祭陽性の場合は、応援司祭で対応

以 上